

公共施設を考える住民ワークショップについて

令和7年度、再配置の推進に向けた個別具体的な取組みとして、河原・用瀬・佐治地域でワークショップを開催しました。

ワークショップでは、人口減少が進む中、地域の賑わいや活力あるまちづくりにつながる公共施設の再編について、さまざまな意見や提案がありました。それらを参考に、3地域の再編計画を作成します。

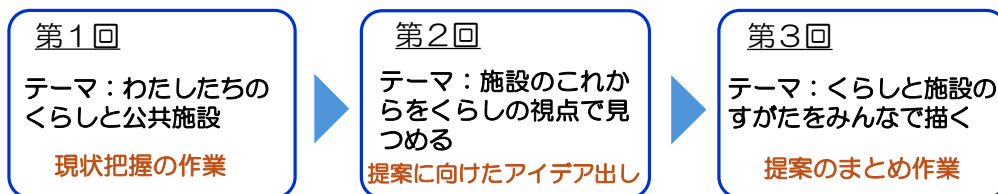
1. 実施状況

中学生、大学生、一般の方（地域に在住や勤務されている方）にご参加いただき、4つの班編成により、開催しました。

地域	日時		会場	参加者
佐治	第1回	7月6日(日) 午前	佐治人権福祉センター	18名
	第2回	7月26日(土) 午後	佐治町コミュニティセンター	23名
	第3回	8月30日(土) 午前	プラーザ 佐治記念ホール	18名 計59名
河原	第1回	10月18日(土) 午前	河原町コミュニティセンター	16名
	第2回	11月8日(土) 午前	西郷地区公民館	18名
	第3回	11月30日(日) 午前	河原町コミュニティセンター	14名 計48名
用瀬	第1回	10月18日(土) 午後	用瀬保健センター	20名
	第2回	11月8日(土) 午後	用瀬町民会館	17名
	第3回	11月30日(日) 午後	用瀬保健センター	16名 計53名
全3地域 計9回実施				延べ160名

2. ワークショップの進め方

将来にわたって公共施設を安心して使い続けていけるよう、施設の再編を検討しながら、「このまちでどんな暮らしをしていきたいか」、「そのためにどんな施設が必要か、どのように使いたいのか」などを考えながら、班ごとに提案をまとめました。



- ・ 普段の公共施設などの使い方
- ・ よく行く場所/よく使う場所
- ・ 今後大切にしたい考え方

- ・ 案を考えたい施設/エリア/場所
- ・ やってみたい使い方
- ・ より良くなる工夫

- ・ アイデアの深掘り
- ・ 提案のコンセプト
- ・ 実現したときの効果、課題

第2回、市が作成した再編案（たたき台）を提示

【たたき台作成時の一定条件】

- ・ 旧耐震などの建物性能が劣る施設は、建物は廃止するが、必要な機能の移転を検討
- ・ 空スペースの活用を検討
- ・ 機能が重複しているものは集約の可能性も検討
- ・ 積極的に民間活力導入の検討

3. 各地域の報告（詳細は資料P2～8を参照）

3地域の参加者は積極的にワークに取組まれ、計12班からさまざまな提案をいただきました。

参加者からは、「普段あまり公共施設を利用していない」、「施設の見直しは必要だと感じた」、「未来について語ることができ楽しかった」、「地域を再認識することができ課題もわかった」などの声をいただきました。

4. 今後の取組み

(1) 再編計画の作成

令和7年度にワークショップを開催した河原・用瀬・佐治地域については、ワークショップの意見・提案を参考に再編計画の作成に取込みます。

今後、庁内で再編計画（案）を作成した後、地域振興未来会議などでご意見をいただきながら進めて参ります。

令和5年7月策定の「公共施設再配置の推進に向けた取組方針」に、随時、追記していきます。

(2) ワークショップの開催

時期：令和8年6月～11月（予定）

場所：西エリア（気高、鹿野、青谷地域）などで実施予定

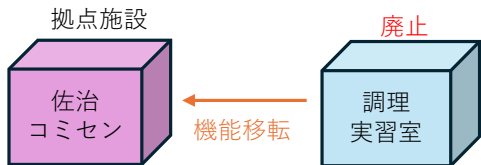
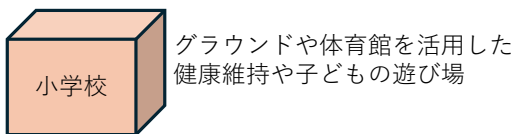
内容：本年度と同様のテーマで行います。

ワークショップの意見を参考に、各地域ごとの再編計画を作成します。

各班の提案

B班（一般）【佐治中央エリア】

コンセプト：佐治町コミュニティセンターを核とした整備



【概要】

- 調理実習室（旧耐震）は廃止し、佐治コミュニティセンターに機能移転することにより、公民館事業や避難所開設時の炊き出し利用など幅広い利用ができる。
- 機能を集約するためには、エレベーターや調理室の改修が必要となるが、佐治の中央に位置し共助交通の拠点となっているコミュニティセンターに、あらゆる機能（調理・観光など）を集約して、住民の集いの場として人とのつながりをさらに継続していく。

【効果】

- 幅広い年代の交流が増える
- 機能集約をすることで地域交流の拠点
- 支所と連携をした交流の場

【課題】

- 人が集うには目的が必要
- イベントの集約化
- 駐車場の確保
- 和室を洋室化
- 設備改修が必要（調理室・EV等）
- 社協との調整

たたき台③：佐治地域の東側エリア

地域の教育・生涯学習エリア「ふるいちのまなび場」



現状

佐治地域の東エリアにおいては、佐治人権福祉センターをはじめ、旧佐治中学校など建設から40年以上の施設がある一方で、地域活性化センターや保育園など比較的新しい施設も存在する。将来を見据え、新旧混在を踏まえた機能の再編が必要とされる。

多世代の学びの集積地

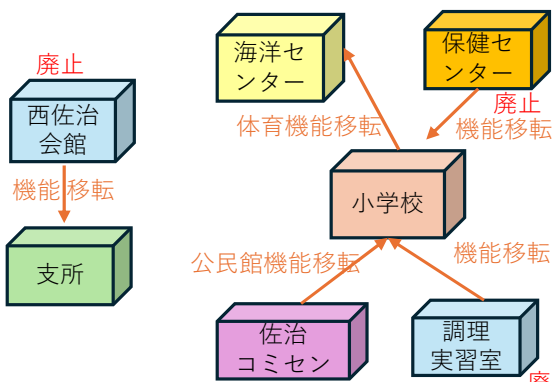
複数の施設や広場、民間の力を結び、子育て・学び・相談の機能を重ね合わせて再編。世代を越えた交流が自然に生まれる、地域ぐるみの学びの場をめざす。それぞれの施設の特徴を生かしながら、日常の中に学びと関わりを循環をつくり、地域にひろがれた多世代の居場所を育てていく。

整備案

ハード的対応	ソフト的対応	メリット	デメリット	再編によるコスト削減効果
<ul style="list-style-type: none"> 佐治人権福祉センター解体 旧佐治中学校解体 	<ul style="list-style-type: none"> 仕組整備 相談・公民館機能の移転 利用の仕組み検討 	<ul style="list-style-type: none"> 機能の集積による多世代交流 民間との連携により、新たな活動や働きの創出が期待 既存施設の有効活用 保育・学習・生涯学習が連続的につながることによる、地域の教育資源の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 保育園や学童などの再編・整備には、段階的な取り組みが必要 複数施設を活かす再編となるため、運営方法や利用ルール等の整理が必要 広場は利用者や団体ごとに求める使い方が異なるため、調整に工夫が必須 	<p>更新経費（建設、改修、小修繕費）</p> <p>2.5 億円</p>

D班（大学生）【佐治中央エリア】

コンセプト：内はうちでやりたいことあるし外の人とも交流したいねん



【効果】

- 地域内交流・外部交流の機能をそれぞれで集約
- 目的のあった人が集まることによりコミュニティ強化
- 機能を明確化することにより防犯性が確保

【課題】

- 使い方と管理方法
- 学校前にバス停なし

【概要】

- 地元の人を中心に利用する機能を小学校に集約し、地域の人だけが使う施設とする。そのことによりコミュニティ強化と防犯性を確保。（集約機能：調理、公民館、自習室、児童クラブなど）
- 小学校のプールと体育館は海洋センターに集約する。
- コミュニティーセンターは会議室等の貸館と外部交流の拠点とする。
- 西佐治会館の機能は支所へ移転し、民泊事務などの事務系を集約する。

たたき台③の概要

- 耐震性が低い人権福祉センターを廃止し、地域活性化センターへ機能移転する。
- 旧佐治中学校（旧耐震）は外壁の劣化が激しく安全性を考慮して廃止する。
- 休園中のさじ保育園は、子ども・子育て支援機能としての活用を検討しつつ、多面的な施設活用の可能性を探る。

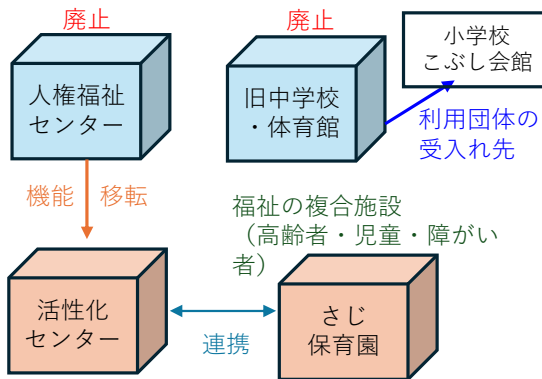
たたき台③への感想

- 人権福祉センターは安全性を考えると地域活性化センターに移転がよい。
- 旧佐治中学校を利用している団体の移転として保育園を活用してはどうか。
- 保育園を幅広い人が利用できる場所としてはどうか。
- ふれあい広場をもっと活用できたら楽しそう。（町外の人も利用）
- 旧中学校プールも何かに活用できないか。

各班の提案

A班（一般）【佐治東エリア】

コンセプト：一日中誰かの声がするエリア



【効果】

- ・年代を超えた新たな交流が生まれる
- ・交流の場を別に作る必要がない（自然と人が集う）
- ・健康づくりの場
- ・見守りの場（子ども、高齢者）
- ・集まりやすい、入りやすい空間

【課題】

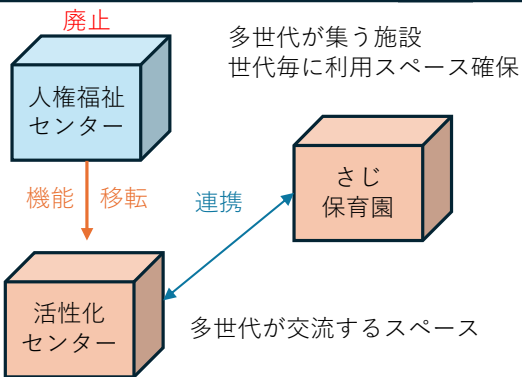
- ・エリアを誰が運営するか
- ・法令上のしぼり
- ・交通手段
- ・食事の場所がない

【概要】

- ・人権福祉センター（旧耐震）は廃止し、活性化センターに機能移転。
- ・保育園が廃園となった場合は、児童・障がい者・高齢者福祉の複合施設として、リハビリ特化型の機能を有した施設とする。一般利用も器具の利用可能。（有料）
- ・エリア内に図書機能や野菜等の無人販売所、自習室などを設置して、気軽に利用できる空間を確保する。エリア内に全世代が集える機能を集約することで人が集い、機能によっては他地域からの利用も期待できる。
- ・旧中学校・体育館の廃止に伴い利用団体を小学校の空き教室、こぶし会館へ移転。

C班（中学生）【佐治東エリア】

コンセプト：集まれ佐治住民！！



【効果】

- ・色々な目的で利用することができる
- ・人と人の関わる機会になる
- ・違う年代の人達が集まれる
- ・Wi-Fiや自動販売機などの設備が充実していると人が集まりやすい

【課題】

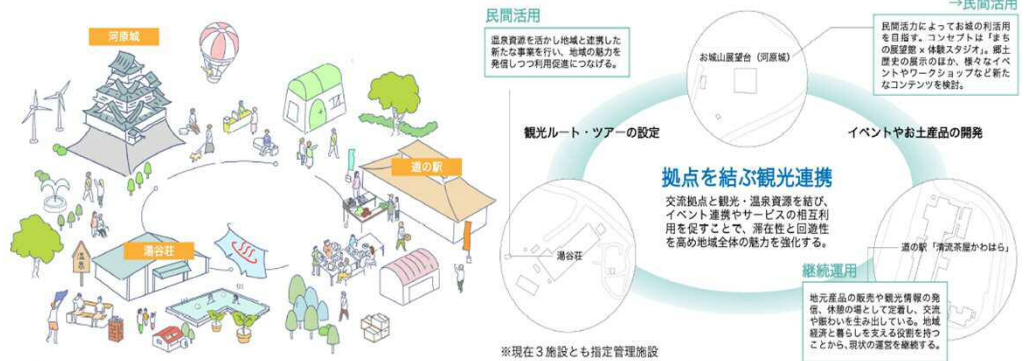
- ・維持管理をどうするか
- ・移動手段

【概要】

- ・保育園が廃園となった場合は多世代が集う施設とする。それぞれの世代毎にスペースを確保し、Wi-Fiや自動販売機などを設置し利用しやすい環境とする。（学習、幼児、体操、リハビリなどのスペース）
- ・人権福祉センター（旧耐震）は廃止し、活性化センターに機能移転。さじ保育園と連携しながら、多世代の交流の場とする。

（2）河原地域

たたき台① 観光拠点をむすぶ「かわはらツーリズム」



現状

町のシンボルである河原城は、独特の外観と立地によって存在感を放ちながらも、展示や利用は限られ、日常的ににぎわいには乏しい。周辺には温泉や道の駅といった観光資源もあり、今後それらと結び付けることで、地域観光の拠点としてさらなる可能性を発揮できるため、活用方法の見直しが求められている。

観光拠点を結び、河原を体験・遊びつくす

交流の拠点、癒しの場、歴史文化の象徴といった多様な資源をつなぎ、日常利用から観光滞在までを一体的に楽しめる繋がり形成する。回遊性と滞在性を高め、地域全体のにぎわいと新たな魅力を生み出す拠点づくりを目指す。

整備案

道の駅は交流と物産の拠点として継続し、温泉施設は民間投資を活かして魅力を高める。河原城は歴史・文化・観光の発信拠点へ民間活用による再構築を図る。これらをつなぎ、イベントやサービスの共同企画、回遊ルートの整備、案内機能の一体化などを進めることで、滞在性と回遊性を高め、地域全体のにぎわいを創出。なお、湯谷荘と河原城については、民間活用の余地がなければ建物を廃止し必要な機能は各施設へ移転。

関連施設の基本情報

施設名	築年数	構造	延床面積	利用状況
お城山展望台(河原城)	31年	鉄筋コンクリート	819.24㎡	5,824人(R5年度実績)
道の駅「清流茶屋かわはら」	19年	木造	1430㎡	1,212,732人(R5年度実績)
湯谷荘	49年	鉄骨造	647.16㎡	29,323人(R5年度実績)

河原城の民間活用スキーム(例)



メリット

- ・河原城のシンボル性を活かし、地域文化や景観を広く発信
- ・「日帰り観光」の拠点の一つとなり、近隣地域との観光連携

デメリット

- ・民間事業者が参入しなければ活用が通まない可能性がある
- ・体験や交流イベントを継続するための企画力/運営力が不可欠

民間活用をした場合の効果

湯谷荘と河原城
更新経費
(建設、改修、小修繕、解体費)
14.4億円
※民間譲渡した場合

たたき台①の概要

多くの人々が利用する道の駅を交流と物産の拠点として、河原城と湯谷荘を結んでイベントなどの共同企画や回遊ルートの整備、案内機能の一本化などの連携を高めて地域全体のにぎわいを創出する。

河原城と湯谷荘は、民間活用の余地がなければ廃止し必要な機能は他施設へ移転する。

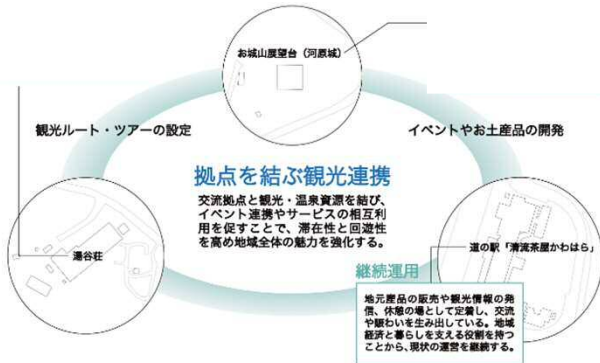
たたき台①への感想

- ・たたき台のように観光・商業施設の連携強化は必須
- ・道の駅から河原町内に関する情報発信の工夫
- ・河原城はランドマークであるが、今までの使い方では限界があり新たな視点が必要
- ・河原町の工芸と食は観光資源として魅力があり、町内をつなぐ交通手段や仕組が必要
- ・集客をするにはバリアフリー化など設備整備が必要な部分がある

各班の提案

A班（一般）【たたき台①観光拠点】

コンセプト：滞在したくなる”まち”【収益アップ】

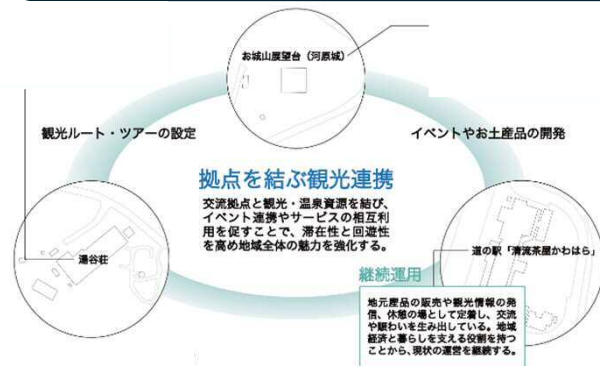


【概要】

- ・年間を通して多くの利用がある道の駅から河原町内に人を呼び込み、滞在する人を増やすため、宿泊機能の充実や地域資源の活用が必要。
- ・宿泊機能充実として、湯谷荘にキャンプ機能の追加や空家を活用した低料金で宿泊ができる場所の整備をする。
- ・町のシンボルである河原城の展示のリニューアルや企画展、イベントの実施のほか、他の地域資源を活用した体験活動の充実などを図り魅力アップにつなげる。
- ・実現に向けて、人材育成や受入れ態勢の強化、クラウドファンディングなどを活用した費用の確保、まちの収益を上げて関わる人の利益につなげる仕組みづくりが必要。

D班（大学生）【たたき台①観光拠点】

コンセプト：Time is money



【概要】

- ・滞在時間を延ばすことで地域にお金を生む。
- ・河原城の展示は道の駅に移して、展望だけでなく宿泊や飲食スペースなど新たな機能を入れる。
- ・まちにフォトスポットや田んぼアート、コスプレ観光地巡りなどのコンテンツを作り、食事や温泉を含めた周遊コースを作る。
- ・河原城で金を生むためのイベントやお土産品の開発。

【効果】

- ・交流人口や関係人口の増加
- ・改めて町を誇りに思う
- ・滞在時間が増えれば新たな経済効果が生まれる

【課題】

- ・経費と労務
- ・住民の巻き込み方
- ・体験活動の充実
- ・安全対策
- ・PRの工夫

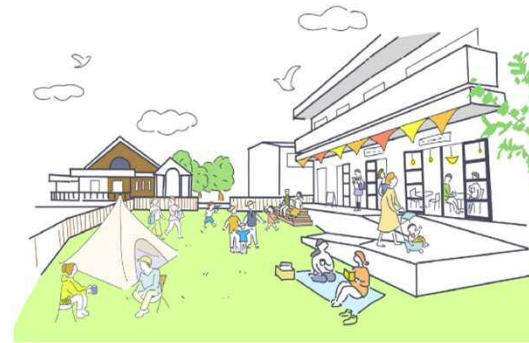
【効果】

- ・河原城を宿として→注目が集まりやすい
- ・学生が来るとSNSでの発信が発信になる
- ・フォトスポットを作ることで観光客とのコミュニティ形成

【課題】

- ・中心となる組織、担い手
- ・協力店舗等の確保
- ・交通手段の充実

たたき台② 多世代が集まる交流拠点「ふれあいテラス」



現状

散岐保育園は休園中、下佐貫児童館は耐震性が低くそれぞれの施設が課題を抱えている。多目的集会所は地域の集まりや活動の場として一定の利用が続いているが、地域の拠点としてより活用される方法を考える必要がある。

学びと遊びが重なる子ども～高齢者までの多世代エリア

子どもたちが自然に集まり、地域の中で成長を支え合う風景を描く。施設単位での整理にとどまらず、遊びや学び、交流が重なり合う場としてエリア全体を活かす。子育て世代だけでなく、幅広い世代が関わりながら、にぎわいをつくり育てていく。

整備案

下佐貫児童館の機能・活動を多目的集会所へ移転。保育園は児童館機能とともに、暫定的に子ども・子育て支援機能とし、エリア一体として有効活用を図りながら、将来を見据えて民間の活用を検討を進める。

関連施設の基本情報

施設名	築年数	構造	延床面積	利用状況
下佐貫児童館	45年	鉄骨造	197.2m ²	1,812人(R5年度実績)
散岐地区多目的集会所(散岐地区公民館)	39年	鉄骨造	342m ²	1,771人(R5年度実績)
散岐保育園	38年	鉄骨造	465.2m ²	(R7から休園)



子ども世代	現役世代	高齢者
地域の人と交流できる！	小学校も、地域の公民館もあって大人の目があるから安心だな	今までの使い方もできるし、子どもたちがくこんで楽しめ
メリット	再編によるコスト削減効果	
・子ども・子育て関連機能集積による幅広い公民館の有効な活用 ・保育料控を踏まえながらエリアのポテンシャルを活かせる	更新経費(建設、改修、小修繕費)	
デメリット	1.4億円	
・公民館等の既存利用との調整負担 ・保育園は暫定的活用であるため、長期的な方向性を検討する必要がある		

たたき台②の概要

耐震性が低い下佐貫児童館を廃止し、多目的集会所（地区公民館）へ機能移転する。

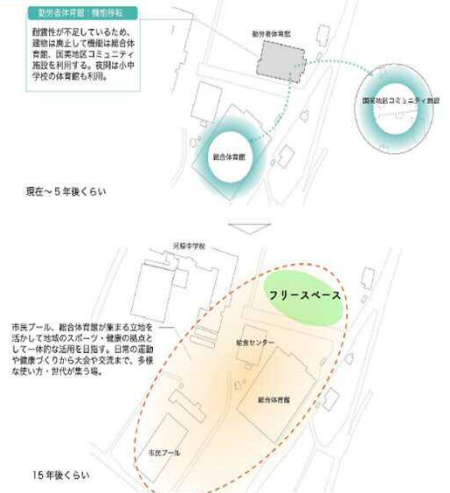
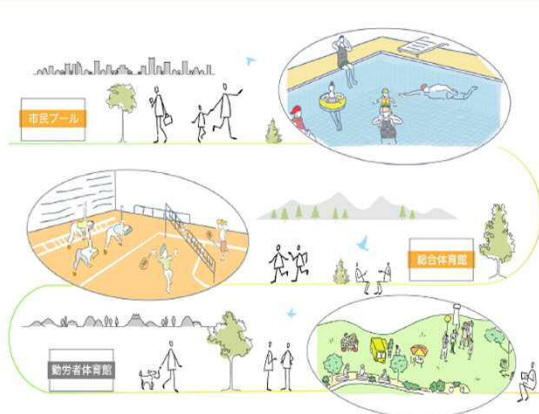
休園中の散岐保育園は、子ども・子育て支援機能としての活用を検討しつつ、将来を見据え民間活用の検討をする。

たたき台②への感想

- ・イメージ図のようにフリースペースとして、多世代が集えるスペースはいいと思う
- ・他地域からも子育て世代が集える場所になるといい
- ・休園している散岐保育園の活用はどうか
- ・小さな拠点が多くあるより1つにまとめて充実した施設とした方がいい
- ・散岐小学校の空きスペースの活用はできないか
- ・現在の公民館の規模で児童館機能の集約は可能だろうか

※各班の提案なし

たたき台③ スポーツ・健康の拠点「ウェルネスかわはら」



現状
河原町労働者体育館と総合体育館は隣接して一体的に管理・運営を行っているが、河原町労働者体育館は耐震性が低く課題となっており、利用者の安全面から整理が求められている。

スポーツと健康を育む拠点
体育館と市民プールが隣接する立地を活かし、スポーツと健康の拠点としてエリア全体を再構築する。勤労者体育館の跡地も民間活用を組み合わせることで、日常の運動や健康づくりから大会や交流まで、多様な世代が集う場へと広げていく。

整備案
隣接する体育館の適正化を検討する。耐震性が低い勤労者体育館は、規模も大きい総合体育館へ機能統合する。近隣には中学校、市民プールなどが集まるエリアのため跡地はサウンディングを行い、民間による活用の可能性を探る。

関連施設の基本情報

施設名	築年数	構造	延床面積	利用状況
勤労者体育館	44年	鉄骨造	838m ²	6,139人(R5年度実績)
総合体育館	41年	鉄骨造	3213.7m ²	14,832人(R5年度実績)
市民プール	35年			4,368人(R5年度実績)

たたき台③の概要

耐震性が低い勤労者体育館を廃止し、総合体育館へ機能移転する。解体後の跡地は周辺施設を含めた民間活用を検討する。

たたき台③への感想

- 勤労者体育館の廃止後はフリースペースとして、運動や人が集う機能（公園、サウナなど）があったらいい
- 中学校施設を含めたスポーツエリアとして幅広い利用が可能で、勤労者体育館廃止後のスペースは駐車場にしてはどうか
- 総合体育館、市民プールの改修が必要で、民間活用により指導者を配置し多種多様な教室が可能となることで集客が見込める
- 多世代交流や市民の健康づくりの拠点となればいい

各班の提案

B班（一般）【たたき台③スポーツ・健康拠点】
コンセプト：子どものたまり場



【効果】
・幅広い世代の交流が生まれる
・人が集まることでの相乗効果、波及効果の実現

【課題】
・運営方法の課題（いかに民間資力を導くか）
・学生の活用（ボランティア活動や職場体験など）
・設備の更新や駐車場整備
・交通アクセスの改善・充実

【概要】
・旧耐震の勤労者体育館は廃止し、芝生のフリースペースとして、子どもが遊べる広場やイベント広場として活用する。総合体育館内に子ども（未満児・就学児）のあそび場や授乳室、絵本やコミック、カフェなどを設置して子育て世代が集いやすい場とすることで全天候型の空間をつくり、保護者もゆったり過ごせる仕組みを作る。
・共助交通の通過点にすることにより移動手段も確保する。

C班（中学生）【たたき台③スポーツ・健康拠点】
コンセプト：「中学生」が考えるユニバーサルエリア！！



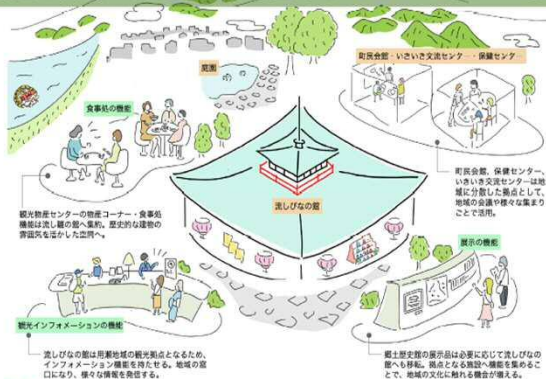
【効果】
・誰でも楽しく使えるスペース
・スペースの有効活用（駐車場、運動できる広場）

【課題】
・照明が無くて夜に使用できない
・中学生には予約が大変
・誰でも使えるからこそ管理、調整が難しい

【概要】
・体育館跡地のフリースペースを芝と舗装の半分に分け、芝部分で屋台イベントや陶芸イベント、イベント以外は芝生広場として幅広い世代（子どもから高齢者まで）の方が自由に遊べるスペースとする。舗装部分は通常時は駐車場とバスケットを設置し、イベント時はイベントスペースとして活用する。
・中学校のグラウンドとテニスコートを開放し、夜間利用ができるように照明を整備する。
・ユニバーサルエリアを交流の場として、河原町全体の体育祭や給食体験イベントなどを形にできる。

(3) 用瀬地域

たたき台① 暮らしと文化が重なる「もちがせ commons」



現状
用瀬地域には流しびなの館、郷土歴史館、町民会館、勤労者体育センターなどがまぎらって立地しているエリアがある。築年数が40～50年に達する施設もあり、老朽化や維持管理の課題が顕在化している。地域の文化や歴史を伝えてきた一方、利用の少ない施設もあり、今後の在り方を見直す時期にある。

まとまりと回遊で育てる文化体験
地域の歴史や文化を一つの拠点に重ね合わせ、まとまりを持って伝える姿を描く。体験に厚みを加え、日常の中に文化を感じられるようにする。そして将来的に流しびなの館の展示や資料を点在させることで地域全体を歩いて楽しむ文化回遊へと広げていく。文化をどう魅せ、どう巡り合わせかを考える視点を大切にす。

整備案
普段利用の少ない郷土歴史館の建物を廃止し、流しびなの館の民間活用の可能性を探り、歴史文化を伝える拠点とする。15年後までに町民会館・交流センター・保健センターの機能を見直し集約化を図る。流しびなの館は民間の継続活用余地がなければ建物は廃止し、機能は各地へ移転。

関連施設の基本情報

施設名	築年数	構造	延床面積	利用状況
町民会館	31年	鉄筋コンクリート	757.15m ²	4,333人(R5年度実績)
勤労者体育センター	46年	鉄骨造	1203m ²	2,149人(R5年度実績)
流しびなの館	37年	木造	975m ²	6,280人(R5年度実績)
観光物産センター	33年	木造	548.19m ²	28,292人(R5年度実績)



メリット

- 流しびなの館を郷土歴史と合わせて機能強化
- 建物の老朽化・維持コスト課題に対応
- 展示品等を分散配置することで地域を回遊し、滞在型観光に寄与

デメリット

- 観光強化のためには建物以外のコンテンツ強化が必要
- 機能・展示品分散によるまとまりがなくなる

再編によるコスト削減効果

更新経費 (建設、改修、小修繕費)

¥18.6億円

たたき台①の概要

耐震性が低い勤労者体育センターと施設利用がほぼ無い郷土歴史館を廃止し、他施設へ機能移転する。町民会館、交流センター、保健センターの機能を見直し集約化を図る。

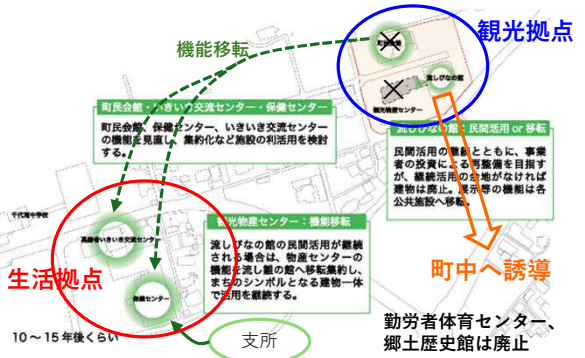
流しびなの館に隣接する観光物産センターの機能を集約して民間活用の可能性を探る。活用の余地がなければ建物を廃止して機能は他施設へ移転する。

たたき台①への感想

- 流しびなの館は町のシンボルであり建物は残してほしい→活用方法の検討
- 流しびなの館の展示などリニューアルすべき
- 物産センターは観光客の昼食会場や庭園をもう少し活用してはどうか
- 郷土歴史館の所蔵品はやまびこ館に引き継げばよい
- 勤労者体育センターは廃止することでロケーションもよくなる
- 利用については小中学校体育館等を利用すればよい→利用者の調整は必要

各班の提案

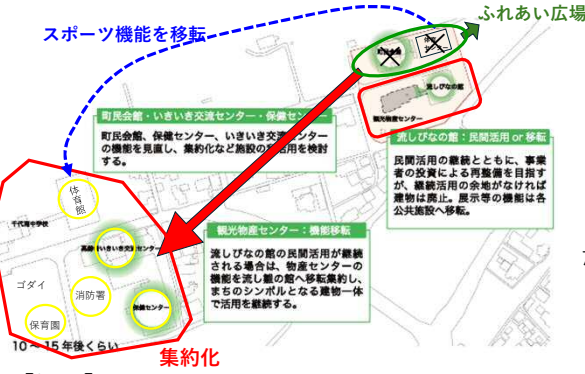
A班 (一般) 【たたき台①】
コンセプト：小さくまとまり大きなにぎわい



【概要】

- 流しびなの館に物産センターを集約し、建物名を変更して展示物の見直しをしたうえで観光の拠点とする。
- 勤労者体育センターを廃止した跡地を駐車場として、流しびなの館を拠点に町歩きや用瀬の食材で作る食事、登山など用瀬を周遊できるコースを整備し、あわせて流しびなの館の伝統を継承する体験活動の充実も図る。
- 町民会館を廃止して、用瀬保健センターといきいき交流センターに機能を集約し、支所や図書館の一部機能を集約することで生活拠点として町民が集う場とする。

B班 (一般) 【たたき台①】
コンセプト：流しびなの館のにぎわい・保健センター利便性向上集約【二極化】



【概要】

- 流しびなの館は展示を見直し新たな集客とリピーターを増やし、町民会館と勤労者体育センターは解体、跡地をふれあい広場として、町民や観光客の憩いの場やイベントを行いにぎわいの創出のエリアとする。
- 保健センターは乳幼児が自由に使えるスペースの設置や調理室・会議室を充実し利用促進を図る。
- いきいき交流センター3階はトレーニング器具を更新して有料で開放したり、会議室として活用する。2階(キッチンあり)は、誰でも利用できるスペースとして開放し交流の場とする。

- 【効果】**
- 住民のコミュニケーション機会の増
 - 新たな集客
 - 町中のにぎわい
- 【課題】**
- 経費(改修費、移転費等)
 - 住民の理解協力
 - 人材育成(ガイド、町民など)

たたき台② 文化を体験し、つなぐ「アトリエもちがせ」



現状

用瀬地区には流しびなの館、郷土歴史館、町民会館、勤労者体育センターなどがまとって立地しているエリアがある。築年数が40～50年に達する施設もあり、老朽化や維持管理の課題が顕在化している。地域の文化や歴史を伝えてきた一方、利用の少ない施設もあり、今後の在り方を見直す時期にある。

身近な拠点に文化を取り込む

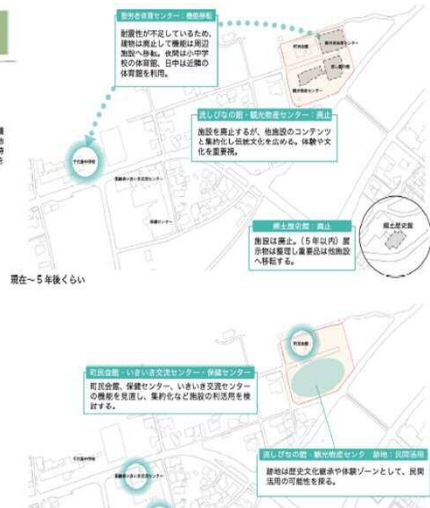
身近に利用される町民会館等に流しびなの館の機能を取り込み、暮らしの延長で歴史や伝統に触れられる場を創出。普段の集まりや活動の中に展示や体験が重なり、日常と自然に交わる風景をつくる。専用の箱ではなく、生活の場に溶け込む拠点とすることで、地域文化をより多くの人に開かれたものとして広げていく。

整備案

日常的な利用の少ない郷土歴史館・流しびなの館の建物を廃止し、盲段利用が身近な町民会館へ機能移転。大規模改修することで、歴史文化に触れる機会を増やす。建物は廃止しても流しびなの文化や郷土歴史を継承するために、流しびなの館の「観光体験」を強化し「日常」に寄り添うエリアを。

関連施設の基本情報

施設名	築年数	構造	延床面積	利用状況
町民会館	31年	鉄筋コンクリート	757.15m ²	4,333人(R5年度実績)
勤労者体育センター	46年	鉄骨造	1203m ²	2,149人(R5年度実績)
流しびなの館	37年	木造	975m ²	6,280人(R5年度実績)
観光物産センター	33年	木造	548.19m ²	28,292人(R5年度実績)



メリット

- ・建物の老朽化/維持コスト課題へ大幅対応
- ・日常と観光が混ざり合うエリアとなる
- ・文化に触れる機会が増える

デメリット

- ・大規模改修に費用が掛かる
- ・文化をまとめて見られる「専用の場所」がなくなる
- ・展示できる量や内容に限りが出る

再編によるコスト削減効果

更新経費 (建設、改修、小修繕費)

¥33.9億円

たたき台②の概要

耐震性が低い勤労者体育センターと施設利用がほぼ無い郷土歴史館を廃止し、他施設へ機能移転する。町民会館、交流センター、保健センターの機能を見直し集約化する。

流しびなの館と観光物産センターを廃止し、町民会館を改修し機能移転する。廃止後の跡地は流しびなの文化継承や体験ゾーンとして民間活用を探る。

たたき台②への感想

- ・流しびなの館は町のシンボルなので残してほしい
- ・流しびなの館より庭園を活かした整備の方がよい
- ・流しびなの行事やマラニックなど地域と密着した行事も考えたい
- ・観光インフォメーション機能は必要
- ・流しびなの館の跡地をイベントや自由に遊べる広場ができるのは良い
- ・町民会館は習い事をやっているのだから、機能は残してほしい
- ・勤労者体育センターは古いが使い道はあるのでは
- ・いきいき交流センターは民間活用をしてはどうか

各班の提案

C班 (中学生+一般) 【たたき台②】
コンセプト：ドリーム・グラウンド



【効果】

- ・日常使いと非日常使いが両立できる
- ・ベビーからシニアまでみんなが使える、集まれる
- ・日常に溶け込む観光スポット

【課題】

- ・人材確保
- ・お金 (ランニングコスト)
- ・施設の大規模改修

【概要】

- ・流しびなの館を廃止後、跡地をフリースペースとして町民会館と一体で活用し、町内外の人々が集まれる場所とする。運営は指定管理か民間とする。(例：子どもの遊び場、カフェ、キッチンカー、野菜販売など)
- ・保健センターに流しびなの館にある展示やふれあいホールを集約する。
- ・高齢者いきいき交流センターは会議室や研修室など人が集まれる場所とする。

D班 (大学生) 【たたき台②】

コンセプト：新しい伝統継承～思いは後世に～



【効果】

- ・集約により施設も維持費も減る
- ・地域、観光客の憩いの場
- ・流しびなの再認識により集客増

【課題】

- ・庭園を造るコスト
- ・流しびなの伝統の別の継承方法

【概要】

- ・勤労者体育センター、町民会館、流しびなの館を廃止し、必要な機能は他施設へ移転する。(スポーツ機能は学校体育館、会議機能は保健センター、流しびなの伝統は他の方法で伝承)
- ・物産センター機能はそのままに庭園を拡大し、流しびなの歴史を感じられるものを配置して庭園内に休憩所や茶屋、着物、飲食店などをコンセプトにあわせて設置する。
- ・流しびなの伝統継承は町なかで流しびなの飾りや文字を増やし、住民中心に流しびなの活動を盛り上げ、町全体の意識につなげる。